

【ポスター発表】

地域子育て支援活動の充実と地域子育て支援拠点利用有無との関連

- 地域子育て支援拠点及び保健センターにおける調査を通して -

関西福祉科学大学 新川 泰弘 (会員番号 05077)

[キーワード] 地域子育て支援拠点,利用効果,保健センター

1. 研究目的

地域子育て支援センターにおいて強化すべき活動として必要だと思つたと回答のあつた上位5項目は、親同士の出会いの場(92.5%) 子育ての楽しさを知ってもらう場(91.7%)子育てに関する親同士の情報交換の場(91%)親への育児方法や知識の提供(89.5%)親と子のふれあいの場(85.7%)であつた(大阪市立大学生生活科学部社会福祉学研究室,2001)。一方、地域子育て支援拠点施設の利用にあたり期待する支援を尋ねた結果、期待するとどちらかといへば期待すると回答のあつた上位項目(80%以上)は、子ども同士の遊び、子育て情報、親子遊び体験についての情報提供、企画イベント参加、子育ての仲間作りであつた(新川,2009)。これらの調査から子育ての仲間づくり、情報提供及び情報交換、親子遊び、親への育児方法や知識の提供といった地域子育て支援活動へのニーズ明らかにされた。本研究においては、地域子育て支援拠点を利用していなかつた保健センター利用者へも調査を行うことで、地域子育て支援活動の充実と地域子育て支援拠点利用の有無との関連性について検討した。

2. 研究の視点および方法

- 1)調査対象：A 県内の地域子育て支援拠点利用者のうち回答を得た地域子育て支援拠点利用者 504 名及び保健センター利用者のうち地域子育て支援拠点を利用していなかつた者 152 名であつた(計 656 名)。
- 2)調査期間：2009 年 12 月 1 日～2010 年 3 月 31 日
- 3)質問紙の作成及び調査実施の手続き：子育て、親育ち、地域育ち応援を見据えた子ども家庭福祉学文献(芝野,2002)(網野,2002)(山縣,2002)(柏女,2003)及び地域子育て支援拠点へ期待する支援と関連した先行調査である大阪市立大学生生活科学部社会福祉学研究室(2001)を参照して質問項目を作成した。その後、質問紙については施設長、園長、職員とのグループ協議を通して修正した。修正を経て完成した質問紙は地域子育て支援拠点施設職員の協力のもと配布、説明し、記入後に回収した。
- 4)質問項目及び分析方法：質問項目は、子育ての情報を提供する支援、子育ての相談内容に応じて他の専門施設や専門職と連携していく支援、子育て支援に関するイベントや催しものを行う支援、子どものことについて相談を受け、保護者の不安や悩みを解消する支援、子育て仲間を作る支援、身体を使った親子遊びを提供する支援、絵本の読み聞かせなど親子のふれ合い体験を提供する支援、子どもの育ち(成長・発達)についての講習、子どもへの接し方や関わり方(ほめ方、しかり方など)の講習、深刻と思われる相談ケースなどへの支援、子育ての経験者の話を提供する支援、地域へ出向いて家庭と地域

社会との関係を調整する支援の 12 項目を対象として、地域子育て支援活動において今後さらに充実させる必要があるものを 5 つ以内で選択するように指示した。なお、結果の集計及び統計分析においては、PASW statistics 17.0 を用いた。

3. 倫理的配慮

本調査にあたってはアンケート調査の趣旨を説明するとともに、個人のプライバシーがもれないように結果はすべて統計処理することをあらかじめ伝えた後に同意を得て協力いただいた。

4. 研究結果

まず、回答者全体の 656 人中 302 人が「5.子育て仲間を作る支援」を求めており、次いで、289 人が「3.子育て支援に関するイベントや催し物を行う支援」が必要であると回答していた。さらに、286 人が「9.子どもへの接し方や関わり方（ほめ方、しかり方など）の講習」をさらに充実させる必要があると考えていた。また、272 人は、「6.身体を使った親子遊びを提供する支援」を必要と感じ、251 人は、「1.子育ての情報を提供する支援」が必要であるとと考えていた。

次に、地域子育て支援活動において今後さらに充実させる必要があるものの差の検討を行うにあたり、地域子育て支援拠点利用群と地域子育て支援拠点を利用していなかった群に対して、地域子育て支援活動において今後さらに充実させる必要がある項目に対して χ^2 検定を行った。その結果、1.子育ての情報を提供する支援($\chi^2=6.28$, $df=1$, $p<.05$)、3.子育て支援に関するイベントや催し物を行う支援($\chi^2=13.8$, $df=1$, $p<.001$)、5.子育て仲間を作る支援($\chi^2=13.7$, $df=1$, $p<.001$)、6.身体を使った親子遊びを提供する支援($\chi^2=9.06$, $df=1$, $p<.01$)については、地域子育て支援拠点利用群の方が、地域子育て支援拠点を利用していなかった群よりも有意に高い得点を示していた。その一方で、10.深刻と思われる相談ケースなどへの支援($\chi^2=10.96$, $df=1$, $p<.01$)については、地域子育て支援拠点を利用していなかった群の方が地域子育て支援拠点利用群よりも有意に高い得点を示していた。なお、それ以外の項目の得点差は有意でなかった。

本研究により、地域子育て支援拠点利用者の方が子育ての情報を提供する支援、子育て支援に関するイベントや催し物を行う支援、子育て仲間を作る支援、身体を使った親子遊びを提供する支援における地域子育て支援活動の充実を求めているというニーズを追検証することができた。

また、地域子育て支援拠点を利用していなかった方は、「深刻と思われる相談ケースなどへの支援の充実を求めている」という実態を明らかにすることができた。

そのため、地域子育て支援拠点における地域子育て支援活動においては「子育て親子の交流の場の提供と交流の促進」、「地域の子育て関連情報の提供」、「子育て及び子育て支援に関する講習等の実施」とあわせて、「深刻と思われる相談ケースなどへの相談・援助」の充実を図っていく必要のあることが示唆された。

本研究は文部科学省科学研究費（若手研究 B）新川泰弘「地域子育て支援センターにおけるファミリーソーシャルワーク実践モデルの開発的研究」（課題番号 20730394）の研究助成を受けて実施した研究成果の一部である。